

小児科系病棟での抗菌薬使用量調査

○本上 ほなみ(ほんじょう ほなみ)、濱端 綾太(はまばた りょうた)、石井 恵理香(いしい えりか)、青井 直樹(あおい なおき)、永井 浩章(ながい ひろあき)、廣瀬 晃子(ひろせ あきこ)、太田あづさ(おおた あづさ)、河原 香織(かわはら かおり)、佐倉小百合(さくら さゆり)、辻本 純子(つじもと じゅんこ)

○目的

兵庫県立尼崎総合医療センター(以下、当センター)は 2018 年から抗菌薬適正使用支援チームの活動を開始した。活動の一つとして抗菌薬使用量調査を実施しているが、小児に使用できる抗菌薬は限られている中で、病院全体の抗菌薬使用量評価は小児の実態を反映できていない。そこで小児科系病棟に限定した抗菌薬使用量を調査し比較を行った。

○方法

2019 年 4 月～2021 年 3 月に小児科病棟、PICU、NICU、GCU に入院した 15 歳以下の患児に使用された注射用抗菌薬を対象とし、抗菌薬を WHO が提唱する AWaRe 分類をもとに一般的な感染症の第一選択薬を Access、耐性化が懸念され適応症を限定すべきものを Watch、最後の手段とするものを Reserve の 3 つに分け、それぞれの使用量を DOT(days of therapy)で算出し評価した。

○結果

WHO は Access60%以上になることを目標に設定している。2019 年度から 2020 年度で、病院全体の Access は 28.8%→44.1%、Watch69.3%→53.2%と変化したのに対し小児科系病棟は Access36.8%→60.1%、Watch62.3%→39.9%と 2020 年度に目標を達成した。2020 年度に病院全体で使用された Watch が 14 種類に対し小児は 10 種類であり、使用量に最も差が見られたのはセフトリアキソン(CTRX)、レボフロキサシン(LVFX)、メロペネムだった。

○考察

成人で一般的に使用される CTRX、LVFX は小児ではほとんど使用しないこと、小児の一般的な感染症に MEPM の使用は推奨しないことが成人よりも Watch の使用量が少なく WHO の目標を達成できた要因と考えられる。また、2019 年度に出荷調整のあった Access のセファゾリン(CEZ)の代替に抗菌スペクトルが類似している Watch のセフォチアム(CTM)が使用されたことも影響したと考えられる。

○結論

病院全体で達成できていない Access60%以上の目標を小児科系病棟では達成できていた。現状、当センター小児科系病棟の抗菌薬の使用は問題なく、今後は内服抗菌薬も含めた適正使用を推進していきたい。

指定：400 字以上 800 字以内

抄録入力フォーム上：797/800 字